府職労2019
ボウリング大会
青年20人 全体75人参加で大盛況!!

6月28日、府職労は心斎橋サンボウルにて、ボウリング大会を開催しました。今年の新規採用職員も含め青年20名、全体で75名が参加しました（女性参加率は32%）。

ボウリング大会を通じて青年のつながりがさらに大きく

19時30分、府と府立病院の各職場から集まった参加者は、3人のチームにわかれてボウリングをスタート!

今回は、青年部が中心となって、青年で集まってチームもつくりました。会場のあちこちから歓声があがり、大いに盛り上がりました。参加者からも「久々のボウリングは楽しい」「もっとやりたい」などの感想がたくさん寄せられていました。

も青年のテーブルをつくり、名札も用意して、お互いに自己紹介したりして、楽しく盛り上がっていました。「3回も練習に行ったのに!!」「今日は調子が悪かった」など、ボウリングの感想でも盛り上がりつつ、「来月の若手職員のつどいもぜひ参加しよう」と次の取り組みへの呼びかけも積極的に進んでいました。

参加者の感想（抜粋）

青年

- チームのメンバーが賞品を取れてよかったです。
- 楽しかった。またやりたい、ボウリング楽しい! YouTubeで勉強続けます。知らない人と話せてよかった。
- 楽しかったです。良いスコアが出なくて悔しかったので次年に向けて練習しておきます。
- 楽しかったです!商品券も頂いて感無量です!
- お誘いありがとうございます。自分は他の事務所の方とお話することが少ないのでとても良い機会でした。労働組合が開催しているイベントや活動について知ることができ良かったです。商品券ありがとうございます!
- 楽しかったです。景品がもらえると思っていませんでした。ありがとうございます。
- 気合い入れて練習したのですが、なかなかスコアが伸びず残念でした。青年のグループで仲良く話もできて楽しかったです!楽しい会を企画してくださりありがとうございました。
- ラッキーな賞が取れてうれしかったです。友達が3位だったので、次は勝ちたいと思います。色んな世代の人と一緒に楽しめることが良いなと思いました。
- ボウリングは初めての参加でしたがとても楽しめました。来年は10位以内を目指して練習します♪
- 途中からの参加でしたが、和気あいあいとした雰囲気で楽しむことができました。他部署の方たちが楽しげな様子を見ることができよかったです。
- 2ゲームくらいなら…と思ってましたが、2ゲーム目盤で握力が限界になったので、2ゲームでよかったです（何とか最後まで投げれました）。賞品ゲットできる人が、うまい人の他に運のいいひともらえるというのはびっくりでした。チームと個人2つとももらえてうれしかったです。ボウリングする前はチームの人とぎこちなかったけど、2ゲームしたらワイワイもりあがれて楽しかったです。
- チーム一丸となってやることができたので、とても楽しかったです。チームでとで同じテーブルになっていたので、交流もしやすかったと思います。
- 色々な人と交流できて楽しかったです。
- 優勝したかったです。来年こそは体調を万全にして優勝していきたいです。

青年以外

- 体を動かせて、食べて、飲んで、しゃべって、共通の楽しいことを一緒にすると近くなりますから、ボウリング&食事会はいいですね。いろいろ準備ありがとうございます。
- 残念ながら100を超えれなかったけど、楽しさは100を超えてました。久しぶりのボウリング楽しかったです。
- 若い人がたくさんいてびっくり。
- いつも楽しいイベントを企画してくださってありがとうございます。ボウリングのゲーム数も2ゲームとちょうどよく、交流会もたくさんの料理があり大満足の会でした。イベントの企画・準備等ありがとうございました。
- 若い人が多く賞品をもらっていてよかったです。また、若い人を集めていたのも良いことだと思いました。
- いくつになってもボウリングは楽しい。来年はもっと支部から組合員を連れてきたいです。
- ボウリング大会初参加しました。親子で楽しめました。青年部の子がもっと参加してもらえるように誘ったのですが、今後もがんばります。天気とG20と心配しましたが、すべてクリアして来れてよかったです。
- 開始を7時30分にしてもらって間に合いました。2ゲームはしんどいと思ったけど楽しかったです。

私のおすすめ —①

このコーナーでは、組合員のみなさんに、おすすめしたい内容を投稿していただきます。本、映画、食べ物、観光スポットなどなど、何かおすすめしたいものがあれば、ぜひ、投稿してください。投稿していただき、採用された方には1000円分の図書カードを進呈します。

「天上の葦」 上・下巻（太田愛著 角川書店）

守口保健所　草野さゆり

私がおすすめするのは「本」です。

正午のニュース、いつものように渋谷のスクランブル交差点が放映される。その交差点の真ん中で、天を指差し老人が倒れた。老人は誰か？何を指し倒れたのか？興信所と警察庁公安部が動き出す。

推理小説かと思いきや、報道の自由が奪われた戦時中の話につながっていく。読み終えて残ったのは「感動」ではない。「衝撃」だ。

この小説が本となって社会に出てきたことに、今まだ社会はなんとか「まとも」を保っているのだとホッとする。だが、油断はできない。だからこそ、たくさんの人にこの本を読んでもらいたい。

みなさん、お忙しいと思いますが、おすすめします。ハズレなしと断言します。あまりに圧倒されたので誰かに伝えたくて。

医療の現場から
府民のいのちと健康を守る府立病院に ⑭

はびきの医療センター　産婦人科病棟　吉丸かなめ

多岐にわたる業務をこなし 専門性が求められる産婦人科

分娩件数が増え 緊張感が強い現場

助産師として勤務しています。当院の産婦人科病棟は、助産師24名・看護師14名・夜勤専従者5名の43名が勤務しています。

近隣の産婦人科の分娩の取り扱いが減ったため当院の分娩件数が増加し、現在は年間900件～1000件となっています。

産婦人科といっても業務は多岐にわたり、分娩・婦人科・NICU・新生児室・産婦人科外来（助産師外来・妊産婦指導室・母親教室も含む）とどこも専門性が求められ独り立ちするまでに経験が必要となるところもあり、独り立ちまでに時間を要します。そのため夜勤回数は約8回～10回ですが、業務すべてをこなせる人の夜勤回数が多くなる現状があります。

深夜帯は助産師を2人以上にしてくれていますが、分娩が重なることもあり対応できなければ日勤の分娩係が呼び出されるため、分娩が重なるそうなときは枕元に携帯を置いてドキドキしながら寝ることもあります。夜勤専門のパートも来てくれていますが分娩件数が増えた分、大量出血や母体搬送、新生児搬送も夜間帯にもあり緊張を強いられる場面も多々あります。

夜間の電話対応も多く業務が重なるとまずはベビー室担当に応援を頼み、それでも無理なら当直師長に応援を依頼することもあります。それでも分娩や新生児搬送が重なると人数は足りていても夜勤専門の人の時などは、できることも限界があり、人手不足を感じます。分娩が中心の病棟のため変動はありますが日勤帯でも同じことが言えます。

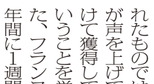
ゆとりをもって 人を育てたい

今年度は新人助産師が7人採用されました。少ない人数の中で新人担当も工夫してつけてくれています。人数が増えることでよい面もありますが、独り立ちするまでは負担がかかりインシデントにも注意が必要となってきます。

もっとゆとりを持ち新人を育てることができたらと思うこともあります。どこの病棟でも同じことだと思いますが、安心安全の看護を提供するためにはマンパワーだけではできません。退職者が出ないような職場づくりができたらと思います。

連載

りかことたいちの職場訪問
こんなとこにも組合員⑪



総合労働事務所　地域労政課　脇田　菜美さん

働く人をサポートする仕事

エル・おおさか南館（大阪市中央区）の3階にある総合労働事務所では、約40人の職員が働いています。突然の解雇やパワハラなど、労働者が働くうえで起こるさまざまな問題の相談を受け、解決のために弁護士や社会保険労務士への橋渡しをして支援につなげています。また、使用者側からの相談にも対応しています。

他にも、トラブルを未然に防ぐための啓発セミナーの開催、春闘や賃上げ調査など各市町村と連携した調査のとりまとめなどを行っています。この総合労働事務所の地域労政課で働く脇田さんに話を聞きました。

自分の経験から「人の助けになりたい」

脇田さんには聴覚障害があります。これまで国や市町村から支援を受け、府立の聴覚支援学校に通っていたという自らの経験も踏まえ「支援制度の大もとに関わることができるし、学校の友人や後輩、同じ悩みを抱えた人たちの助けになれるかもしれない」と考え、大阪府に入庁しました。

「毎日学ぶことがたくさんあるんです!」といきいき話す脇田さんの表情からは「誰かの役に立つ仕事がしたい」という思いが伝わってきました。

労働相談の窓口があることは、まだまだ知られていません。奨学金を抱えたまま仕事を辞め、自殺にまで追い込まれてしまうというケースもあるそうです。「十分に周知されていないことが心苦しい」

「労働相談のセミナーなどで少しでも存在を知ってもらい、困ったときには思い出してほしい」と話す脇田さんの表情からは、仕事に対する真剣な姿勢が伝わってきました。

最近では上司の提案でお昼休みに手話の勉強会もしているそうです。脇田さんは「人に教えることで、普段使っていた手話の由来を知る機会にもなって、とても嬉しいんです」と笑顔で話しながら、私たちにも簡単な手話を教えてくれました。

職場の仲間はみんな温かく親切で、労働相談を受ける職場だからこそ定期的に問題点を話し合い、誰が何をしているのかわかるような情報共有を重視した体制を心がけているそうです。

物語から情報を取り込む

耳が聞こえにくいということもあって、情報を取り込みつつ、楽しめる本や映画などの「物語」を見るのが好きという脇田さんは、最近では「名探偵ピカチュウ」を映画館で見たそうで「思いのほか泣いてしまった」と笑いながら話してくれました。

また、仕事についても「不謹慎かもしれないけど、労働相談の中にもいろんな人の『物語』があって、自分の知らない世界があることを知り、少しでも人の役にたてることが嬉しいです」と話してくれました。

そして、労働組合についても「仕事をしているだけでは入ってこない情報もたくさん入ってくるし、いろんな職場の人に会えて楽しい。職場とはまた違うつながりがあり、自分が何かをしたというわけではないけど、加入して数が増えることが力になると思ったから」と加入の動機も話してくれました。

今回の取材を通して、働く人を守るために日夜奮闘する総合労働事務所の大切な役割とそこでやりがいを感じていきいきと働く脇田さんの姿が伝わってきました。

【聞き手　茂内梨香子・越智太一】

女性部第65回定期大会を開催
みんなで討論！ 楽しく元気になった！

6月20日、女性部は第65回定期大会を開催し、44人の女性組合員が参加しました。参加した組合員に「大会って楽しい！」と感じてもらいたいという思いから、従来型の大会形式を一新し、ワークショップ形式を取り入れました。

ワークショップ、好評！

「楽しい！」と感じる大会にしたい

あいさつでは、福田女性部長が18日の夏季闘争の団体交渉で、育児部分休業を小学3年生へ対象拡大したことを報告すると、会場のあちこちから喜びの声があがりました。

続いて韋野書記長が、1年間の取り組みをBGMつきのスライドショーで報告し、福田副部長が取り組み方針と要求書などの議案を提案しました。

韋野書記長は、育児部分休業の対象拡大に触れて「当局が勝手に休暇を与えてくれるわけではない。私たちが声をあげて労働組合があるからこそ実現できる!」と強調しました。

大会討論については、6つのグループにわかれ、進行を小松副委員長に委ねました。「みなさん、休んでますか?」という問いかけからスタートし、「休暇チェックリスト」を参考に、どれだけ休みを使ったかセルフチェックし、ペアトークでどんなときに休んだかを話し合いました。

子育て中の参加者からは「子どもの看護休暇を使い切ったら年休を使わざるを得ない。子どものために使うことがほとんどで、自分のために休むことはほとんどできない」などの切実な声も出されました。また、休暇チェックリストを見て「高齢者部分休業って何?」などの質問も出され、どのグループでも話が盛り上がりました。

そのあとは「休み」について、フランスの事例を参考に学び、有給休暇（年休）が使用者側から与えられたものではなく、労働者が声を上げて長い年月をかけて獲得してきたものだということを学びました。また、フランスでは「過去1年間に1週間以上の旅行をしなかった家庭は貧困」という貧困指数があることも聞き、参加者からも驚きの声が上がり、日本の休暇に対する意識の違いを感じるものになりました。

そのあとは、学んだことも踏まえて、なぜ休めないのかをグループで話し合いました。「職場に余裕がない」「休んだ後の仕事のしわ寄せが怖い」「休める環境づくりが大切」などの意見が出されました。

テーマ別に改善策について楽しく討論

後半は6つのテーマ（①妊娠・出産・育児にかかわる休暇、②その他の休暇（年休・介護・生休・病休、③職場環境（セクハラ・パワハラ）人間関係、④給料・ボーナス、⑤健康管理、⑥効率よく仕事をして定時に帰る）でグループをシャッフルし、テーマに沿ってグループトークをしました。いまの職場実態も踏まえ、グループで改善策を出し合い、「お!これいいね!」「女性部でやってみたい」というものを1つ選んで、最後には「改善策のイメージ」のイラストをみんなで描いてワークショップを終えました。その後の議事で各グループが話し合った内容を発表し、討論を終了しました。

討論に対するまとめで福田女性部長は「女性ならではの悩みも出され、職場ですぐ実践できそうな具体的な改善策も出たことがとてもよかった。何をするにしても、数は力になるということを感じとってもらえた大会だった。女性部としても今回出された声もいかし、取り組みを進めていきたい。参加しやすい取り組みを企画したいので、今後もたくさんの人に呼びかけてほしい」と述べました。

その後、すべての議案を採決し、大会は無事に終了しました。

大会参加者の声（抜粋）

- 今まで参加した女性部大会の中で一番楽しく有意義に過ごせました。
- 楽しく、初めて会ってお話した人もいたので、次回からもこのやり方でしていただけたら嬉しいです。その他の組合員も誘ってきます。
- 小3までの育児部分休業延長は私が女性部にいた頃からの要求（せめて小1夏休みまででしたが）でした。実現してよかったです。職場でとりやすい雰囲気にしていきたいと思います。
- 「子の看護休暇があることを知らなくてずっと年休をとってました」との発言がありました。システムを開いたら休暇制度の説明はあるけど、知らない休暇のないようにしないといけないですね。当局はもちろん!組合としても!
- 休める環境づくりのために、声かけをする事から始めようと思った。海外の休みの現状を知り、休暇の権利に対する価値観が変わりました。
- 実現できそうなことを提案があったので、職場でも提案してみようと思います（おしゃべり会など）。
- 初めて参加しました。組合の必要性をあらためて感じることができました。
- 初めて参加しましたが、働いていて当たり前の制度と思っていることは、組合で声をあげ続けていたからこそ使える制度なんだと実感できました。ありがとうございます。
- ワークショップ形式、話しやすかったです。若手職員がもっと参加できたら良いなあと思います。
- とても明るい雰囲気で周りのみなさんが元気で話しておられて、前を向ける大会だなと思った。
- 3時間余りの時間があっという間でした。報告を聞く時間より参加者のディスカッションの時間がとられていたので、いろいろな職場の方の話を聞くことができました。
- 多くの仲間とお話ができて良かったです。職場ごとに課題がさまざまで団結して取り組む必要性を再確認しました。